

# 林業とくしま



活かそう 使おう  
みどりの資源間伐材



「緑でつなく  
みらい いのち  
将来の生命」

(平成11年徳島県緑化標語優秀作品)

徳島北高等学校1年

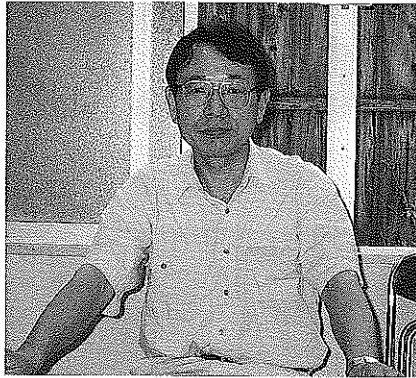
中須志保さんの作品

No. **250**  
1999.10

# 担い手づくりに 向けて

翔協業体会長

橋本堅次



平成八年に那賀・海部川(那賀)流域活性化センターが設立されたのに伴い、担い手の養成確保について担い手部会で協議を重ねてきました。那賀川流域には四〇程度の事業体がありますが、従業員の

高齢化や新規採用者の確保が重要な課題となっています。

担い手部会では、第三セクター方式の検討を行い、先進地への視察も実施しましたが、現状では時期尚早との結論に達しました。

しかし、このまま従前どおり事業体が個々に求人を行っても、担い手を確保することは一朝一夕にはいかない状況です。また、事業量も年々減少傾向にあり、通年就労体制を維持していくことは並大抵のことではありません。そのため、第三セクターではなく、労務補充を主体にした協業体を発足させて人的信頼関係をつくるのが先決ではないかということになり、協業体を設立することに取っかかり

ました。

そこで、賛同した五社が集まって、平成十一年二月に翔協業体を設立しました。「翔」という名称は、上那賀町の和田町長さんをお願いして命名していただいたもので、翔協業体はもちろんのこと、那賀川流域の林業が将来にわたって飛躍してほしいという願いが込められています。

既に、二社の間で労務の補充を行っていますが、違う作業現場に触れることで、お互いに技術の向上が望めますし、理解も深まってきます。今年度は、労務の補充だけでなく、パソコンを導入し、インターネットを通じて情報収集や情報交換を行うとともに、ホームページを作成して積極的にPRする計画です。

翔協業体は五社にこだわらず、活動に理解していた、だけの事業体の参加を望んでいますし、翔協業体の試みが担い手づくりへの第一歩となることを信じて邁進していく所存です。

今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

## もくじ (林業とくしま 250号)

やまびこ(担い手づくりに向けて).....	2
鉄人コーナー(新しや彫刻家).....	3
(「古代伝統技術が甦る」しらすえ織り)	
林政の窓(「間伐の推進」向けて).....	4
特集(木材の商品開発拠点と情報発信基地).....	6
林研とみんなの情報交流コーナー.....	8

技術情報(木材の耐久性と保存処理).....	10
阿波だぬき(日本の神々の話).....	12
東西南北.....	13
ご案内.....	14
お知らせ.....	15
広告.....	15

「新しや」  
彫刻家  
林実氏  
山城町

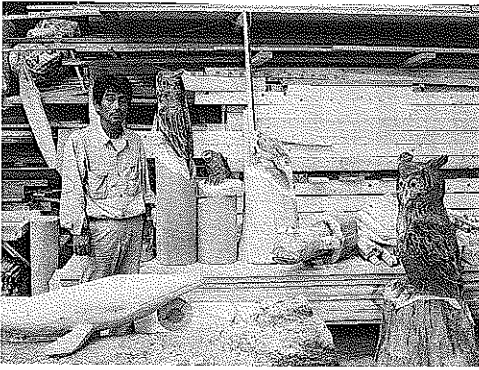
今回の鉄人は、チエンソーで彫刻する林実さん(49才)です。林さんは、「有限会社あたらしや」に勤務し、家屋やログハウスを建築しています。約十年前から趣味として、チエンソーで木を彫刻することを始めました。ぎっかけは、「大きな木があつたから掘りたくなつた。」ということでした。以前から芸術に興味があり、油絵で風景画や花、植物を描いていたそうです。

あたらしやさんの事務所にもいくつか作品が置いてあります。最初に拝見させていただいたときは、想像よりも全然細かい作業をされていて、チエンソーで作つたとは、思えませんでした。今までに動物、昆虫を中心にたくさん作品を作られたそうですが、ほとんど欲しい人に譲つたそうです。山城町のラピス大歩危には、2m40cmの巨大フクロウやリス、クマ等を展示しています。林さんは、家を建てたら(サーピスで?)、何かを

一つ設計者に内緒で作っているそうです。

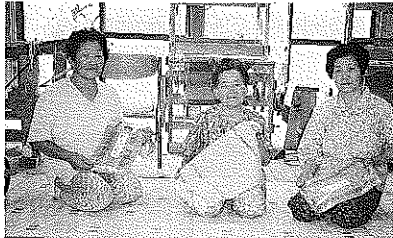
昨年、NHKの放送で紹介されたからは、「ヘビ作つて、クマ作つて」と注文があるそうです。また、今年になつてからは、福井県の「港博21」で三日間実演したり、東京の百貨店で開催された、「棚田パノラマ体験展」にトンボ、タニシ等を出展するなど、忙しい日々を送られています。

「好きこそ物の上手なれ」と口癖の林さんは、挑戦したい事が沢山あり、等身大の人間(女性)や大きなクジラを彫りたいそうです。まだまだ若い49才、これからも自分の芸術を楽しんで、本職共々がんばつてくたさい。



「古代伝統技術が甦る」  
しらたえ織り  
しらたえ工場の皆さん  
穴吹町

遠くさかのぼること大和の時代、神武天皇は天日鷲命を阿波国へ遣わし、楮や麻の種を植えさせました。朝廷の祭祀に奉仕する忌部氏はこれらの草木の皮から荒妙・白妙と呼ばれる織物を織り、朝廷へ献上されたと伝えられています。



しらたえ工場の皆さん(代表 南後タケ子さん)は、農業などの仕事の傍ら、昔から伝わるこの織物を甦らせた鉄人達です。

昭和六十年、穴吹町の口山首野地区で養蚕が盛んだった頃、二等繭と楮(工場の皆さんはゴウゾカジと呼んでいる)の樹皮を使い、試行錯誤で織りはじめたそうです。今では、百

五十本もの楮の木を工場のまわりに植栽し育てています。すべてが手作りのしらたえ織りは機で織るまでに何日もかかります。簡単にその行程を紹介します。①楮の木を採取し皮をむく ②2時間程煮て乾燥させる ③水につけて糸状に割く ④繭を取り出し糸を紡ぐ ⑤縦に繭糸横に楮の皮を機にセットし織る このような古人の「木の皮を織物にする」という発想も、それを再現してしまうのも「鉄人の成せる技」なのでしょう。

工場の皆さんは新たな作品を作るとともに、この技術を次の世代にも受け継いでもらおうと「体験学習の場」の提供なども考えているようです。最近ではほとんど聞こえなくなつてきた

機織りの心地よい音がこれからも響くことを願っています。



# 「間伐の推進に向けて

## 一、はじめに

A談「間伐は、古くて新しい課題である。」

B談「間伐、間伐と、関係者はもう間伐推進に疲れている。しかし、再度気を引き締めて推進を！」

「私たち、林業関係者にとつて、間伐推進は重要な課題で、声高らかに推進が叫ばれています。」

最初に、徳島県において、今まで間伐がどんなふうを実施されてきたのか、簡単に紹介することとします。

## 二、間伐の現状分析

徳島県の間伐事業の推移は、昭和五六年度に補助施策が始まって以来増加し、昭和六一年から平成二年当時がピークで、年間約四千haもの間伐を実施し、その後は徐々に減少、そして微増し、現在二千五百ha〜三千haになっています。

「どうして減少したのでしょうか？」

林業就業者が減少・高齢化したため、間伐材の価格を含めた木材価格の低迷で、所有者の施業（手入れ）意欲が減退したためなど、いろいろな原因が考えられます。

## 三、間伐実施の課題

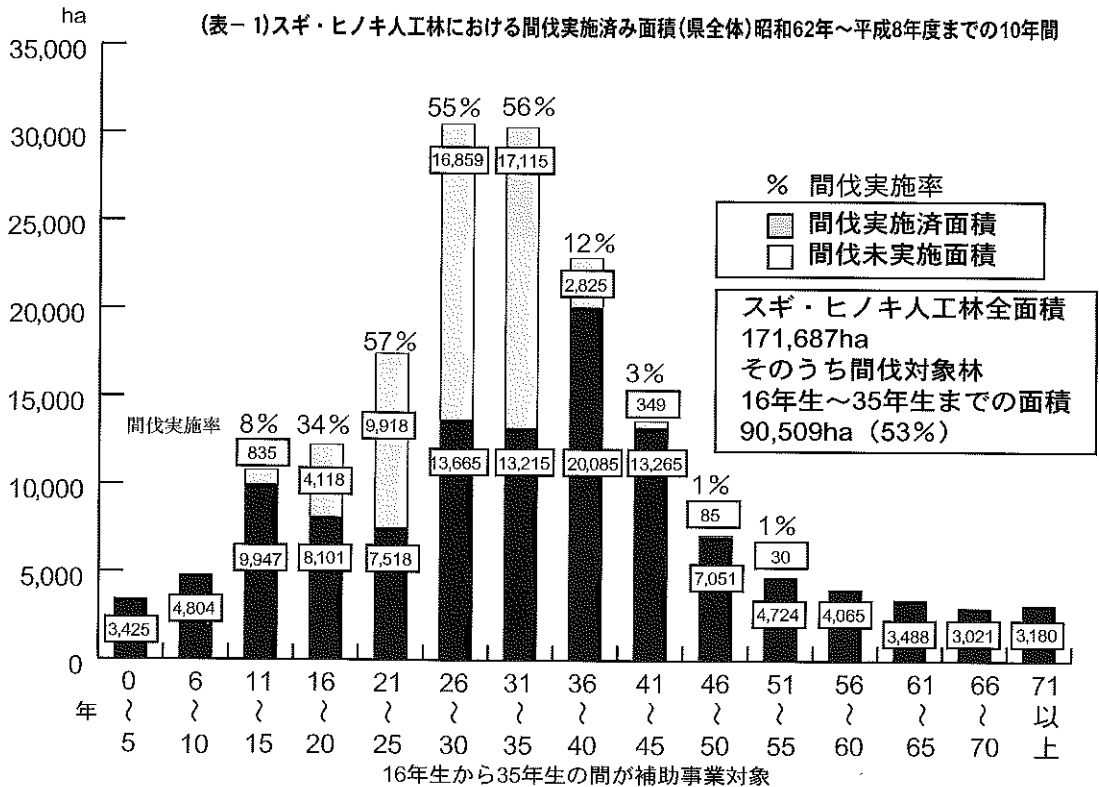
昭和六二年度から平成八年度まで過去十ヶ年間の間伐実績で、間伐状況を振り返ります。

表1のとおり、スギ・ヒノキ人工林における年齢構成別の資源に対し、ある程度間伐は推進されているといってもいいのではないのでしょうか。

今まで県下の林業関係者が、間伐推進にご努力された結果でもあります。

一方で、これからの間伐実施の課題として、まず間伐は一度した成林するわけでなく、生産目標

(表一)スギ・ヒノキ人工林における間伐実施済み面積(県全体)昭和62年~平成8年度までの10年間



にあわせ適宜繰り返し実施しなければいけない。

比較的森林面積の多い人は、二回目あるいは三回目と積極的に間伐を実施しているが、小規模森林所有者は、山に関心もなく、ほったらかしとか。地域差もあるでしょう。

まだまだ、間伐が必要な森林が存在しているのは確かです。

そこで、徳島県間伐推進協議会では、今年度の間伐推進目標を次のとおり掲げています。

- ① 間伐未実施林分の解消
- ② 二回目間伐の推進
- ③ 間伐材生産を目的とした間伐推進

特に③を重点に、森林所有者などに間伐推進を呼びかける普及・啓蒙活動を推進することになっていきます。

## あなたの森林は、

### 間伐でできましたか？

#### 四、現在の間伐推進補助施策

ここでは、徳島県における「間伐」に対する補助施策を紹介します。

事業実施主体は全て市町村、森林組合、林業者の組織する団体などです。(但し、国及び県の事業のみ)

#### (1) 間伐実施に対する補助事業

ア 水土保全森林緊急間伐実施事業など

○ 補助事業者：国及び県(さらに市町村独自に補助金を上乘せする所もあります。)

○ 補助の対象：十一〜三五年生(但し三〜三五年生には条件あり)

○ 実質的な補助率：県で決めた事業費の二八％〜七二％

イ 森林整備緊急支援事業(新規)

○ 補助事業者：県及び市町村(市町村が補助することが条件です。)

○ 補助の対象：三六〜四五年生

○ 補助率：県で決めた事業費の三分の二以上(県：三分の一以内 市町村：三分の一以上)

○ その他条件：施業実施協定を締結した森林

(2) 間伐材の搬出に対する補助事業  
ア みどり資源有効利用促進事

業

一〇〇m以上の距離で、間伐材を集材機などで搬出する場合の補助事業

○ 補助事業者：県及び市町村(市町村が補助することが条件です。)

○ 補助の対象：一五〜四五年生まで

○ 補助率：県で決めた事業費の四分の三以上(県：二分の一以内 市町村：四分の一以上)

○ 対象とする事業：集材機の設置・張り替え、盤台の設置、山土場造成など

イ 市町村独自の補助事業

市町村独自に搬出間伐に助成している市町村もあります。例えば、〇〇町では搬出される間伐材に一㎡当たり三千元の補助金を助成。

最近では、森林の健全性や公益的機能を高めるためという目的で、

ますます「間伐」に対する補助施策は拡充しています。これをお読み

の方で、間伐を実施される時は、ぜひ補助制度をご活用ください。

## 五、おわりに

素人ながら間伐をしたことがありません。暗い林内の中に入り、チェーンソーで間伐する木を伐っていきました。その日の作業が終わり、間伐した林を見ると、ちらちらとやわらかい光が入り、さわやかな風を感じました。

その時、私はさわやかな気分になり、理屈抜きで、森林にとって良いことをしたと思えました。これで残った木も、のびのびと生長できかな。地表にどんな植物がでてくるのかな。

これから何十年後の森林の姿を想像すると、やはり何か役にたつことができたのではないかと思えました。

環境や資源としての森林を、過去から未来へ受け継ぐために、今私たちができること、それは「間伐」です。

林業振興課 森林育成係

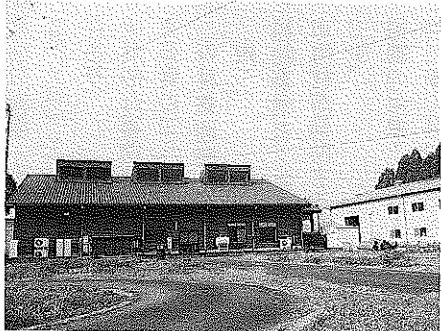
# 国産材需要開発センター 「木材の商品開発拠点と 情報発信基地」

## 一 はじめに

徳島県では、豊かな木材資源と成熟した林材業を活かし、徳島型木造住宅を近畿圏に供給するシステムづくりに取り組んできました。そして国産材需要開発センターは、このシステムを技術的に支援する施設として平成五年十月林業総合技術センター内(徳島市南庄町五一六九)に設置されました。この施設は木造住宅のみならず、木に関わる人であれば自由に使用できる開放型の研究所(オーブンラボラトリー)となっています。

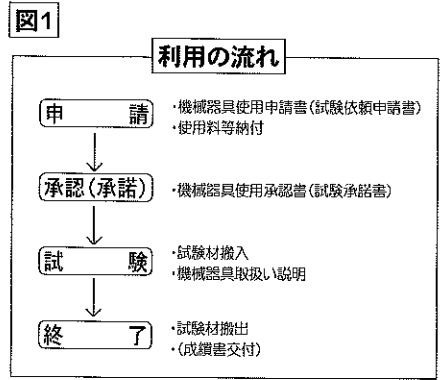
(写真1)  
主な設備として、実大強度試験棟(二六〇平方メートル)に木材実大強度試験機(圧縮一〇〇トン、曲げ・引張り二〇トン)や壁パネルの強度測定機器など一三点が、また新技術開発棟(五四四平方メートル)には化学処理や水分調整機能を備えた施設として減

写真-1



圧加圧加熱含浸処理総合システム(φ900×L200mm、耐圧1.0〜20kg/cm<sup>2</sup>、高周波加熱及び爆砕装置付)、スチーム噴射ホットプレス(450×200mm 圧力27kg/cm<sup>2</sup>)含浸加工分析表か装置 走査型電顕とEDX A元素分析)のほか、生物劣化促進室(培養室、無菌室、大型滅菌機、非破壊テレビシステム、超音波測定システムや人工気象室(温湿度10〜80℃/30

〜90%RH、降雨量10〜70mm/sec、風洞速度5〜20m/sec、陽光ランプ・殺菌灯など一九点の試験機器が整備されています。施設利用にあたっては図1のように簡単な手続きで行えますので、どうぞご利用ください。



## 二 企業の商品開発を支援

さて、これらの施設を使って各企業が自社で開発した商品の性能試験を行っています。例をあげますと、県南の林業グループは、スギ厚板表面に高温の熱圧処理を施し、硬さや汚れ難さ等の利便性を高めた健康フローリングや腐りにくくシロアリに強い機能を付与した木製のデッキと

フエンスを開発しました。消費者に商品特性をアピールするために電子顕微鏡(写真1-2)で製品表面の細胞を観察したり、表面硬さや光沢等を測定しています。

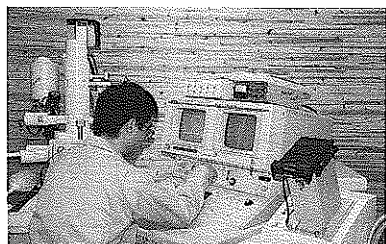
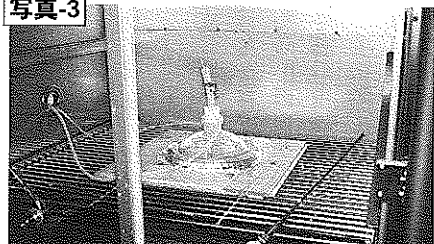


写真-2

写真-3



また県南の製材のグループは特殊ビス等を用いたリフォーム用スギ内装材を開発し、その性能試験をしました。センター内の作業舎に商品を実際に施工し、建材からの揮発性有機化合物ホルムアルデヒドの放散が抑制できるのかを測定しました。

(写真1-3)





# 林研とみんなの情報交流コーナー



## 三好地区林業指導者会

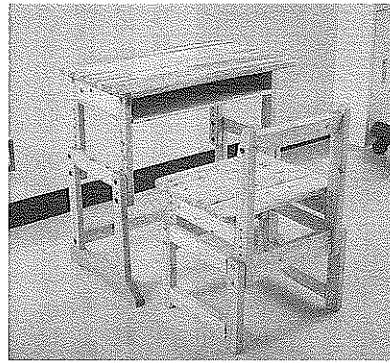
当会は、三好地域において、林業経営の向上と地域林業に貢献する事を目的として昭和六十一年に発足しました。

これまで、採算間伐による長伐期施業展示林の設置、マツクイ虫抵抗性アカマツやホウの林木育種など「指導者会」として地域林業の振興にどのような役割を果たしていくのかをテーマとして活動してきました。

近年、三好地域においても核家族化による借家住まいの増加や、住環境の変化に伴う非木造住宅の増加により「木のぬくもり」を知らない子供達が増えています。

指導者会では森林環境の保全における林業の役割と、木の文化の理解・伝承に少しでも役立てばと、三好郡内小学校で木製(間伐材)勉強会が導入されるよう、試作品を完成させるなどの活動をしており、

今後導入実現に向けてより一層の条件整備を図っていきたくと考えています。



## 阿南地区林業指導者会

去る七月二六日、上那賀町長安

口ダム湖に面した「湖畔の森」で、阿南地区林業指導者会の有志が集



まつて下刈作業を行いました。

「湖畔の森」は、平成十年度に当会の指導を受けて上那賀町平谷中学校の生徒がサクラやカエデなど一六〇本の苗木を植栽したもので、植栽した生徒の名札も付けられています。

当日は梅雨明けしたはずなのに、雨が降ったりやんだりのあいにくの天気です。ずぶ濡れになりながらも、つるが繁茂した中を悪戦苦闘して、刈り払いを行いました。今後も第二回目の下刈と補植を行う計画で、生徒が大人になった時に感動できるような美しい湖畔の森林になるよう今後も手塩にかけて育てていきたいと考えています。



## 美郷村集約林業研究会



不在村者等の所有する森林資源の整備への関心を深めるため、美郷村と集約林業研究会が不在村森林所有者を対象に休日に現地研修会を行いました。

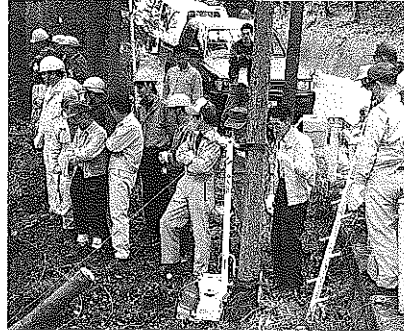
美郷村においては、不在村者の所有する森林面積が約半分であり間伐等保育の必要な森林の整備推進のあい路となっています。村では不在村者約六〇〇名に対してダイレクトメールを送付したところ三十二名の一般参加がありました。当日は全く自己所有林に入った事のない人も参加していました。が、間伐や枝打ちの効果を手入れのされていない地区との対比によりその重要性が認識されるとともに、簡易なウインチでの搬出を見学してもらいました。

この会の終了後、早速間伐をして欲しいと言う声があり林分調査を行うなどの効果もありました。これを契機に、森林整備の重要



# 林研とみんなの情報交流コーナー

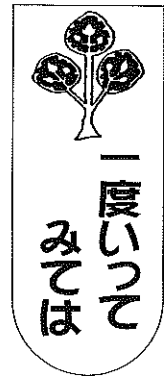
性と助成制度を知ってもらい、新たな森林所有者（不在村森林所有者）の森林整備の掘り起こしにつながってもらえばと思います。



## 木頭村林業振興会

木頭村林業振興会は平成十一年度の林研グループの支援事業で、乗用モノレールの技術者養成に取り組んでいます。木頭村は徳島県の中でも急峻な地形であり、林道等の基盤整備がなかなか進まない状況でした。そこで平成八年からモノレールの設置に取り組み、現在村内三箇所を設置されています。木頭村では十一年度以降も設置を計画していることから、今回会員を対象にした講習会を行い設置・

メンテナン스에即応できる技術者を養成することとなりました。七月七日から三日間の日程で、現地での実技、室内での講義、受講後の試験を行いました。モノレールの設置は、1mないし3mの支柱で支持しながら4mのレールを接続していきます。専用の治具で行うレールのカーブ設定やねじれ修正には慣れるまで時間がかかりそうですが、木頭村の急峻な地形でも十分設置でき（最大傾斜角四十五度）、通勤時間の短縮に大いに貢献することと思われまます。



上勝町にサラサドウダンの群生地があると聞き、県認定の「森の案内人」田中貴代さんにその紹介をお願いしました。

今回紹介するサラサドウダンの群生地は上那賀町との境界の竜峠（標高約一〇八〇m）付近にあります。上勝町役場から高丸山方面へと向かい、途中八重地集落への入り口を過ぎアメゴの養殖池（山側の池は当家の所有です。）を過ぎてから、左手の林道へと入っていきます。その林道からさらに治山の事業地跡への支線へ入りもう少し行くと車はそこまで。そこから群生地を見るには約一時間ほどでよくと作業道を歩くことになりまます。歩き初めて二十分もするとさっそくお目当てのサラサドウダンがあり、五月中旬頃には、鈴な

りの花を見ることが出来ます。さらに歩をすすめ、山の神様をお祀りしている踊石へ向かう尾根付近では、高さ三〜四mほどのサラサドウダンが群生しています。踊石に上がると上那賀町側の展望が良く、踊石からの高度感とあいまってすがすがしい。また、踊石の登り口には付近で最も大きいといわれるサラサドウダンがあり、幾星霜を耐えてきたその木の生命力に大きな感動を覚えます。

図鑑によるとサラサドウダンは四国には徳島県のみ分布しており、その中でも上勝町以外にはあまりみられないそうです。

上勝町には今回紹介した場所以外にも群生地があり、これらも含め貴重な植生を大切にしていきたいと思われました。

田中貴代



# 木材の耐久性と保存処理

徳島県林業総合技術センター

木材化工科長

仁木龍祐

## 一、はじめに

最近、野外施設への木材の使用や土木工事への間伐材の利用など条件の厳しい場所での木材の利用が増えている。それにもない、木材の耐久性に関するデータも要求とされるようになってきた。木材は使用される場所により耐久性が大きく異なるため、耐用年数などひとことで表現するのは難しい面もあるが、なんらかの指標は必要である。

そこで今回、いくつかの知見をもとに木材の耐久性和その耐久性を高めるための保存処理について検討したので紹介する。

## 二、木材の劣化の特徴と耐用年数

### (木材の劣化)

木材の劣化には腐朽菌やシロアリなどによる生物劣化、紫外線な

どによる化学的劣化、摩滅などの物理的劣化がある。これらの中で最も影響が大きいのは菌類による生物劣化である。

木材腐朽菌が木材中で生育していくためには水分、空気、温度などが必要である。野外で使用される木材は地面と接する部分、すなわち地際部が最も腐りやすいが、これは腐朽の条件が整っているためと考えられる。地上部は乾燥するので水分が不足し、地中部は空気が遮断されるため劣化が遅くなる。また、水中や湿地で木材が腐りにくいのも空気が遮断され、温度も低いためであろう。

### (木材の耐用年数)

木材の耐久性についての具体的なデータは少なく、森林総合研究所浅川実験林苗畑の杭試験は数少ない報告のひとつである。これは、地面に打ち込まれた杭の経過年数ごとの被害の程度によって、その

樹種その部分における耐用年数を決定したものである。それによると各樹種の耐用年数は表一のとおりである。

表一 国産樹種の耐用年数

樹種	辺心材別耐用年数
ヒノキ	5.0
ヒノキ	7.0
サワラ	4.0
スギ	7.5
カラマツ	4.5
アカマツ	6.0
アスナロ	4.0
アスナロ	6.0
アスナロ	4.5
アスナロ	5.5
アスナロ	5.0
アスナロ	6.5
アスナロ	4.0
アスナロ	7.0
ケヤキ	7.5
ケヤキ	2.5
ケヤキ	7.5

林業試験場報告、No297、1970  
から抜粋

従来から耐久性が高い樹種とされているヒノキ、ヒバ、アスナロ、クリ、ケヤキなどの心材は七・〇〜七・五年で、スギ、カラマツの心材は六・〇年とわずかに劣っている。辺材についてはずっと短くなり、スギでは四・五年となっている。スギ間伐材は、心材化が進んでおらず辺材の率が高いため、辺材の耐用年数を用いることになる。

もつともこの試験では条件の最も厳しい地際部での被害度を基準にしており、木材の使われ方によっては多少長くなる可能性がある。スギでも地面に直接触れない地上部は、心材については十八年以上の耐用年数が認められた場合もある。

また、水中に没したまま使用される場合も耐久性は高くなる。北海道の報告では、木工沈床に使用した木杭は五年間経過しても健全であったとされている。

余談になるが、当センターと徳島すぎクラブが鹿児島県吹上浜の京都大学シロアリ試験地で五年間行ったスギ心材のシロアリ抵抗性試験(写真一)では、「被害なし」「食痕程度」の被害にとどまっております。おり耐蟻性の高さも実証されています。



表-2 各種木材処理法の比較

処理法	加圧法	温冷浴法	浸漬法	塗布法 吹付け法
原理	真空、加圧による圧入	加熱冷却による吸引	毛細管現象による自然吸収	毛細管現象による自然吸収
薬液の吸収	150kg/㎡以上	50kg/㎡以上	20kg/㎡以上	10kg/㎡以上
浸潤長	辺材部100%、心材はわずか	辺材部の大部分	表面から5mm以下	表面から2mm以下

日本林業技術協会、1971から抜粋

表に示されたとおり、薬液の注入量とそれぞれの方法の特徴を見ると

### 三、保存処理木材の特徴

木材の劣化現象に対して科学的な手法により木材に耐久性を付与させ、その耐用年数を延長させるのが木材保存処理である。

その方法には、表-2のように加圧法、浸漬法、塗布法・吹付け法などがある。従来は、手軽なことから塗布法・吹付け法が一般的であったが、最近では加圧法も多くなり、処理施設も増えつつある。

と浸潤長に大きな違いが見られる。

まず、薬液の注入量では塗布法・吹付け法が10kg/㎡程度であるのに対し加圧法ではその十五倍の一五〇kg/㎡と桁多くなっている。

材表面からの薬液の浸透深さを表す浸潤長では塗布法・吹付け法が2mm以下であるのに対し、加圧法では辺材部全体に浸透するとされ大きく違っている。塗布法・吹付け法ではあまり深く薬液が入らないため小さなわれやキズにより効果が損なわれる場合がある。

加圧処理剤の場合心材より辺材の方によく薬液が入るので、未処理の材と違って辺材の方が強くなる。

### 四、保存処理木材の耐久性

加圧注入処理で最も多く使われているアルキルアンモニウム化合物(AAC)と銅アルキルアンモニウム化合物(AACQ)を例にとるとその耐用年数はいずれも十年以上となっている。昔、枕木に使われていたクレオソート油は三九年以上となつてい

る。加圧注入処理では一度処理すればあとの手入れはほとんど不要である。

持続させるためには、およそ三年ごとに塗りなおしが必要であり、メンテナンスの有無により耐用年数は違ってくる。

以上のことから加圧注入処理材は、未処理の木材や簡単な処理をした木材に比べて別物と考えた方が誤解を招きにくい。

ところで、加圧注入処理材の取り扱いで注意しなければならぬ点はいくつかある。その一つは、製造時の品質管理があつてはじめて性能を発揮できるということであり、不良品を用いたことによるトラブルも少なくない。

もう一つは、薬液は仕上げ加工された材に注入するのが原則であり、処理後に加工すると材内部の薬液の浸透していない部分が露出し、その部分から腐朽の始まる恐れがあることである。やむをえず加工する場合は薬液塗布など応急処置をする必要がある。

### 五、木材保存処理の意味

木材の欠点のひとつである腐朽を制御し耐久性を高めれば、従来木材の使われなかつた分野でも利用されることになり用途の拡大につながる。

また、安い材でも利用可能になるため熱帯雨林などの希少な資源の保護にもつながる。さらに長期間使用されるといふことはその間二酸化炭素を貯蔵することになり、また廃棄物の抑制にもなる。以上のことは疑いの余地のないことである。

木材は腐つたほうがよいという場合もあるがそれは用途や目的によつてであり、分けて考えるべきであらう。

### 六、おわりに

先に述べたとおり木材の耐久性は使用される場所によつて大きく違ふことや保存処理の有無などによつて変わるためかなり情報が混乱しているように思われる。保存薬剤の効力発現機構は界面活性剤による細胞膜破壊、金属による酵素阻害などであり自然の木材のそれとは大きく異なる。そのため、加圧注入処理材は、別物と考えるべきである。加圧注入処理材は、無処理の木材のように地際部が腐りやすいということもない。

なお、二で述べた木材の耐用年数は、雨や日光にさらされた屋外で使用される木材についてであり、屋内で使用される建築用木材、家具等については当てはまらない。

# 日本の神々の話

脇町農林事務所

林務課長 宮城 徹

大気津比売(オオゲツヒメ)と須佐之男命(スサノオノミコト)、日本神話に登場する二人の神々をご存知でしょうか。

「吾が身(の)の成り余れる処を以ちて、汝が身(の)の成り合わざる処に刺し塞ぎて国土を生みなさむ」といつてイザナキ・イザナミの二神が最初に淡路島、次に四国を生み、伊予はエヒメ、讃岐はイイヨリヒコ、粟(徳島)はオオゲツヒメ、土佐はタケヨリワケと名付けました。

この徳島の神オオゲツヒメは穀物を司る女神で、スサノオノミコトに食べ物を乞われた時、鼻、口、尻から穀物を取り出して供えたため、スサノオノミコトに怪しまれ殺されてしまいます。殺された女神の目から「稲」、耳から「粟」、鼻から「小豆」、陰部から「麦」、尻から「大豆」が生え出したのが農業の始めの種となり、

これが「高天原(たかまがはら)からの贈り物」として「五穀の名で呼ばれるようになりました。」

ということは、歴史伝説上、日本農業のルーツは我が四国徳島であったと云うことに……

もう一人、我がオオゲツヒメを殺したスサノオノミコトですが、広辞苑によりますと、イザナキ・イザナミの子、天照大神の弟、強暴、出雲国で八岐大蛇(ヤマタノオロチ)を退治し……また新羅に渡り船材の樹木を持ち帰り、植林の道を教えたと言……とあります。

かつて日本神話が創られた時代、中国山地の照葉樹林は、たたらを使った古式製鉄のために、燃料としてすべて切り尽くされてしまいました。このため集中豪雨のたびに鉄砲水や土石流が発生し、人も家も田もひとのみに……



この土石流こそ水を司る竜神ヤマタノオロチの正体だという説もあるそうです。スサノオノミコトがこのヤマタノオロチを退治したということは、新羅から持ち帰った樹種で植林し荒れ山を復旧し、怒れる竜神を鎮めたと考えてしまうのは、治山経験者の身勝手な解釈?

農業に劣らず植林の歴史もそれほど古いという一説でした。最後に、スサノオノミコトが新羅から持ち帰ったとされる樹種は、何だと思えます?





## 徳島 間伐講習会開催

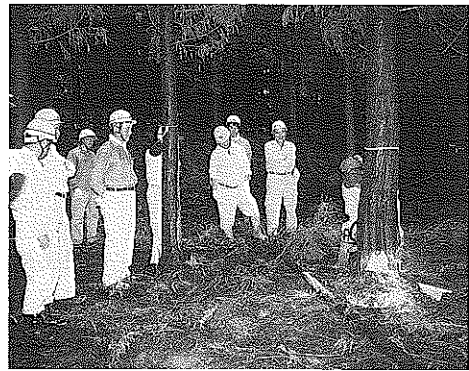
去る、八月二四日徳島市八多町において徳島市森林組合員を対象とした間伐講習会が開かれました。

林総センターから松尾、兼松の両氏を講師に招き、午前中は「間伐の必要性や補助制度、間伐の方法」など講義を行い、午後からは現地ですべて実際に選木の仕方や倒木、枝払い、玉切りなどの実技を行いました。

林内の木を二〜三本倒すだけでなく、明るくなっていく様子を見た組合員のあいだからは、間伐の必要性を強く認識したという声が多くありました。

その後、兼松講師からチェーンソーの手入れの仕方について講義があり、活発な意見がかわされました。

徳島農林事務所 藤友 毅



## 阿南 大工さんが 木工教室開催

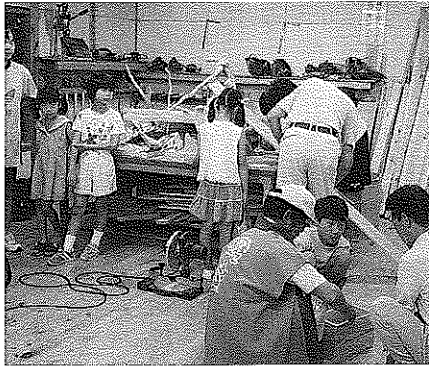
上那賀町の木頭森林組合の工房「モツキ」で、八月十八日に木工教室が開催されました。主催はフレックセ丹生谷支部で、平成九年度の鷺敷町、十年度の相生町について三回目開催となります。

フレッセは建築関連業者から構成されていますが、木に触れる機会が少ない子供達を対象に木工を通して木のよさを実感してもらおうと始めたものです。

当日は大工さんを中心とした精

銳が集まり、小学生と父兄に工作の指導を熱心に行いました。子供達のユニークな発想で、ひと味変わった作品ができました。ポケモンのレターホルダー、焼板風動物飼育箱など大工さんの手際の良い補助で見事な仕上がりとなり、夏休みの宿題の完成に子供達（というよりは父兄！）も満足げでした。

阿南農林事務所 吉永 享

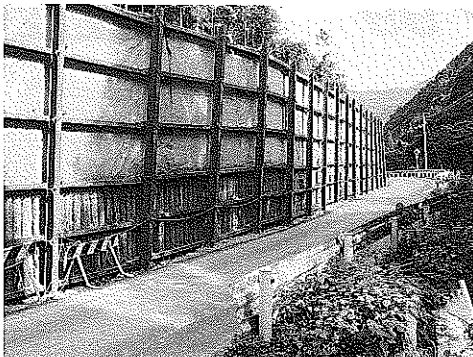


## 島 国道改良工事へ 川 の間伐材利用!!

県川島土木事務所では、国道一九三号線的美郷村において改良工事の防護柵に間伐材を利用してあります。

現場は、山中の狭い国道で山側土砂を切り取り拡幅する工事です。そこには、落下物から通行車両を守るために延長六八mの道路に末口一五cmで高さ二mの材を四五本立てています。同事務所では山に囲まれたこういう現場ではほとんど地元産の間伐材を利用したいとのことでした。

川島農林事務所 濱田浩二



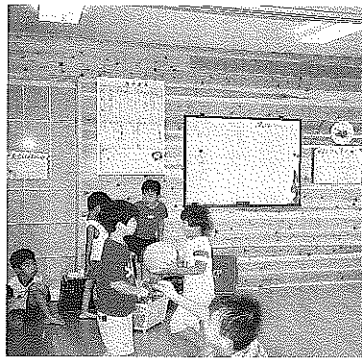


**脇町**  
木造の  
児童クラブ施設

この八月一日に、脇町役場の近く  
に出来た、木造の児童クラブ施設を  
紹介します。

これは、厚生省の「子育て支援のため  
の拠点施設整備事業」で町が建て  
たもので、両親が共働きしており、  
子供が幼稚園児や小学校低学年で、  
家庭で子供を世話する人がいない  
人が、預ける施設です。建築面積は、  
二十坪程度で大きくはありません  
が、壁にはスギ板を張り非常に明る  
い室内を確保しています。

昨今、アレルギー体質や突然キレ  
ル子が増え、大きな社会問題となっ  
ていますが、取材に行つたときは、十  
名程の子供たちが元気に遊んでお



脇町農林事務所 渡辺 誠

り、この建物の中ではそんな心配は  
無用と感じました。これからも、子  
供の頃から木と接することができ  
るような環境づくりが大切になつて  
く  
るのではないのでしょうか。

**池田**  
森林の楽校"99

阪神淡路大震災時に、三好郡  
八ヶ町村と林業関係者が、被災学  
生に対して仮設寮を提供したこと  
により始まった、都市と山村との交流  
会が今年も開催された。

昨年から名称を「四国へそ  
森林の楽校」99」と改めたこの催し  
は今年で五回目を迎え、七月三十  
日から八月一日の二泊三日で「大学

の森」を中心に開催された。  
主として学生中心のリピーター  
が実行委員となり、企画・運営・進  
行を行う民間主導型で進められ、楽  
習会、下刈、間伐、木登り、ワーク  
ショップ、農業体験など盛りだくさ  
んのメニューをこなした。  
参加者は、東京、石川、奈良、福岡  
など全国各地から集まった十八歳の  
女子高生から上は六六歳のご婦人  
までの三十名。井川町の強力なパッ  
クアップもあり、参加者は林業体験  
を通して、自然や森林、環境問題や  
地域文化について十分触れることが  
できたようだ。

池田農林事務所 伊賀上 朗



**山と木と緑のフェア"99**  
(第12回徳島WOODわくわく祭)

**ご案内**

テ - マ: 「ヒーリング・スペース 山・木・緑」  
開催日時: 平成11年10月23日(土)・24日(日)10時~17時  
開催場所: 徳島市藍場浜公園  
主な内容: ウルトラクイズ・大抽選会・木工教室・  
木製品や山の素朴な特産品等の大即売・  
樹木医無料相談等楽しいイベントがいっぱい

県内各地から  
木材や山の特産物が大集合!!



## お知らせ

### 第11回美馬林業まつり

と き 平成11年10月17日(日)午前10:00から

ところ 美馬郡一宇村剣山スキー場

#### ◎プロの技の神髄を見よう!!

- ・ワイヤ細工の魔術師 :ワイヤスプライス選手権
- ・チェンソーの切れ味を競う:チェンソー目立て選手権
- ・重さ100kgの丸太を運ぶ :とび・テックニック選手権
- ・町村対抗丸太切り競争(飛び入りチームも歓迎)

#### ◎あなたにもできる林業体験

- ・林業用グラップルローダー体験試乗
- ・チェンソーによる玉切り体験
- ・ワイヤスプライス教室  
\*ワイヤスプライスとはワイヤーを編むことによりアイ(へび口)をつくる技術です。

#### ◎山村の食と遊び体験

- ・竹とんぼ教室・本格そば打ち体験
- ・森のクラフト教室・樹木ものしり教室

主催:美馬林業振興会

森林・林業・山村を知りたい人は  
剣山スキー場へ集台!!

#### ◎その他企画

- ・一宇村郷土芸能披露
- ・チェンソー・草刈り機無料点検、相談
- ・美馬郡物産直販コーナー
- ・ハスクバーナチェンソー展示販売コーナー
- ・森林・木材・住宅に関するパネル展示
- ・間伐材を使ったモデル治山施設の展示
- ・住宅・木材相談コーナー

#### ◎お楽しみ企画

- ・木材重量当てクイズ・森林ウルトラクイズ

問い合わせ先 脇町農林事務所林務課 0883-52-2222

一宇村役場産業課 0883-67-2111